

京都府京田辺市

新田遺跡第7次発掘調査概報

—大住地区ほ場整備事業地内の調査 その4—



2000

京田辺市教育委員会

序

本市の北部大住地区において、大規模なほ場整備事業が実施されていますが、この区域にはいくつかの遺物散布地が存在しています。

そこで、ほ場整備事業と埋蔵文化財との円滑な調整をはかるための事前の試掘調査を平成8年度から行っています。

今年度は、昨年に続き新田遺跡の調査を行いました。一部では昨年度同様古代や中世の遺構・遺物がみつかりました。

最後になりましたが、今回の調査にあたりましては、土地所有者の方々、関係機関をはじめ多くの方々のご協力・ご指導をいただきましたことをお礼申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財に対しご理解賜りますようお願い申し上げます。

平成12年3月

京田辺市教育委員会

教育長 村田新之昇

例 言

- 1 本書は、平成11年度に京田辺市教育委員会が行った新田遺跡^{しんでん}発掘調査の概要報告である。
- 2 本調査は、京都府が計画した大住地区ほ場整備事業にともない、国庫補助事業として実施した。
- 3 現地調査は平成12年1月7日に開始し平成12年2月25日に終了した。
- 4 調査の組織は次のとおりである。
調査主体……京田辺市教育委員会
調査責任者……京田辺市教育委員会 教育長 村田新之昇
調査指導……京都府教育委員会・京都府立山城郷土資料館・京田辺市文化財保護委員会
調査担当者……京田辺市教育委員会 社会教育課 鷹野一太郎
同 上 五百磐頭一
調査事務局……京田辺市教育委員会 教育次長 中川 勝之
同 社会教育課 課長 奥田 清
同 課長補佐 桐山 弘男
同 社会教育係長 木村稚可子
調査参加者……阿知波琢士・石田典生・嵯峨山俊道・原 クニ江・岡 百合
作業委託……全京都建設協同組合
- 5 調査を実施するについて、京都府山城土地改良事務所・京田辺市農業土木課には多大のご協力を賜った。記して感謝します。
- 6 調査期間中及び本書を作成するにあたり、次の方々からご教示を得た。記して感謝の意とします。(順不同・敬称略)
磯野浩光・肥後弘幸・奈良康正・安藤信策・久保哲正・岡崎研一・竹井治雄・筒井崇史
- 7 本書の執筆・編集は、鷹野・五百磐が行った。

1 はじめに

京田辺市松井及び大住において、府営ほ場整備事業が行われることになり、同地区内に所在する魚田遺跡・新田遺跡等について、ほ場整備事業と遺跡保存との調整をはかるための資料を得ることが必要となった。

そこで京田辺市教育委員会では、京都府教育委員会と協議の結果、ほ場整備事業地内の遺跡について、範囲及び状況等の確認、遺跡保存のための基礎資料作成のため、平成8年度から発掘調査を実施することとした。

今年度は、昨年度に引き続き新田遺跡の発掘調査を行った。

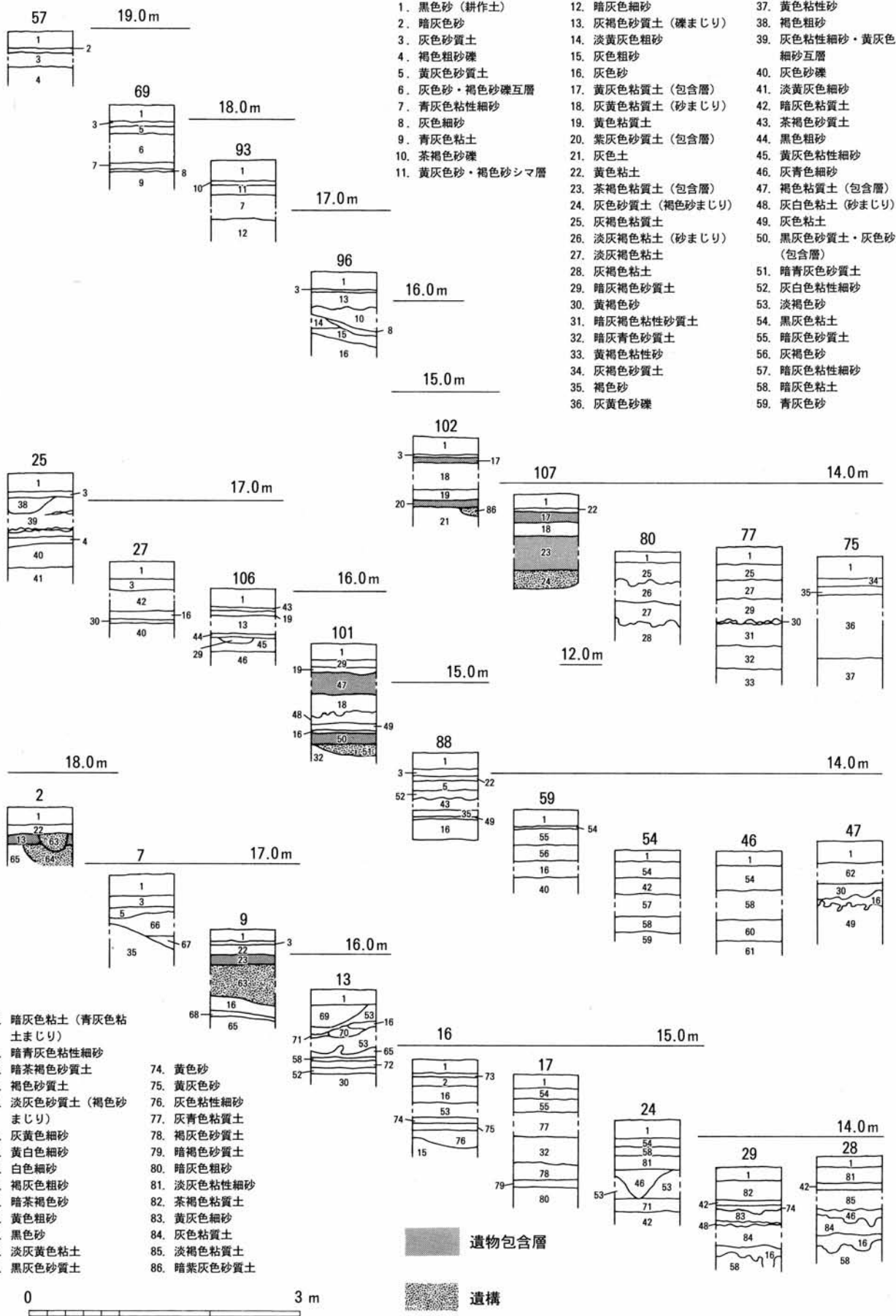
なお、土地所有者の方々をはじめ、関係者の方々、寒中強風のなか作業に従事された皆さん、その他多くの方々の協力によって今回の調査が行われたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査地位置図 (S = 1 : 20,000)

V : 今年度調査地





1. 黒色砂 (耕作土)
2. 暗灰色砂
3. 灰色砂質土
4. 褐色粗砂
5. 黄灰色砂質土
6. 灰色砂・褐色砂礫互層
7. 青灰色粘性細砂
8. 灰色細砂
9. 青灰色粘土
10. 茶褐色砂礫
11. 黄灰色砂・褐色砂シマ層
12. 暗灰色細砂
13. 灰褐色砂質土 (礫まじり)
14. 淡黄灰色粗砂
15. 灰色粗砂
16. 灰色砂
17. 黄灰色粘質土 (包含層)
18. 灰黄色粘質土 (砂まじり)
19. 黄色粘質土
20. 紫灰色砂質土 (包含層)
21. 灰色土
22. 黄色粘土
23. 茶褐色粘質土 (包含層)
24. 灰色砂質土 (褐色砂まじり)
25. 灰褐色粘質土
26. 淡灰褐色粘土 (砂まじり)
27. 淡灰褐色粘土
28. 灰褐色粘土
29. 暗灰褐色砂質土
30. 黄褐色砂
31. 暗灰褐色粘性砂質土
32. 暗灰青色砂質土
33. 黄褐色粘性砂
34. 灰褐色砂質土
35. 褐色砂
36. 灰黄色砂礫
37. 黄色粘性砂
38. 褐色粗砂
39. 灰色粘性細砂・黄灰色細砂互層
40. 灰色砂礫
41. 淡黄灰色細砂
42. 暗灰色粘質土
43. 茶褐色砂質土
44. 黒色粗砂
45. 黄灰色粘性細砂
46. 灰青色細砂
47. 褐色粘質土 (包含層)
48. 灰白色粘土 (砂まじり)
49. 灰色粘土
50. 黒灰色砂質土・灰色砂 (包含層)
51. 暗青灰色砂質土
52. 灰白色粘性細砂
53. 淡褐色砂
54. 黒灰色粘土
55. 暗灰色砂質土
56. 灰褐色砂
57. 暗灰色粘性細砂
58. 暗灰色粘土
59. 青灰色砂

60. 暗灰色粘土 (青灰色粘土まじり)
61. 暗青灰色粘性細砂
62. 暗茶褐色砂質土
63. 褐色砂質土
64. 淡灰色砂質土 (褐色砂まじり)
65. 灰黄色細砂
66. 黄白色細砂
67. 白色細砂
68. 褐灰色粗砂
69. 暗茶褐色砂
70. 黄色粗砂
71. 黒色砂
72. 淡黄灰色粘土
73. 黒灰色砂質土
74. 黄色砂
75. 黄灰色砂
76. 灰色粘性細砂
77. 灰青色粘質土
78. 褐灰色砂質土
79. 暗褐色砂質土
80. 暗灰色粗砂
81. 淡灰色粘性細砂
82. 茶褐色粘質土
83. 黄灰色細砂
84. 灰色粘質土
85. 淡褐色粘質土
86. 暗紫灰色砂質土

トレンチ土層略測図 (上の数字がトレンチ名)



第5次調査地周辺トレンチ配置図（アルファベットが教委調査トレンチ）

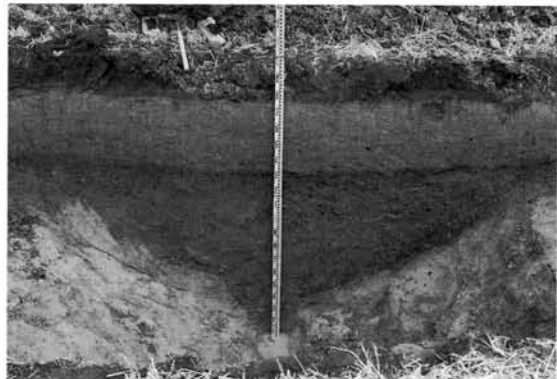
灰色系の粘土や暗い青灰色系の粘性細砂層がみられる。中世から近世の遺物がわずかにみつかるとは。但し、一部の灰色系の粘土層では直径0.1m程度の不定形の穴が密にあり、灰色の砂が入っている地点がある。洪水等で流された水田跡とも考えられる。

北端部は虚空蔵谷川の旧堤防の北側で、中央部よりやや標高が高い。67・68・72～78トレンチでは耕作土の下に砂・砂礫層がみられる。これは木津川による土砂の堆積で、ある時期に河道であったことがわかる。

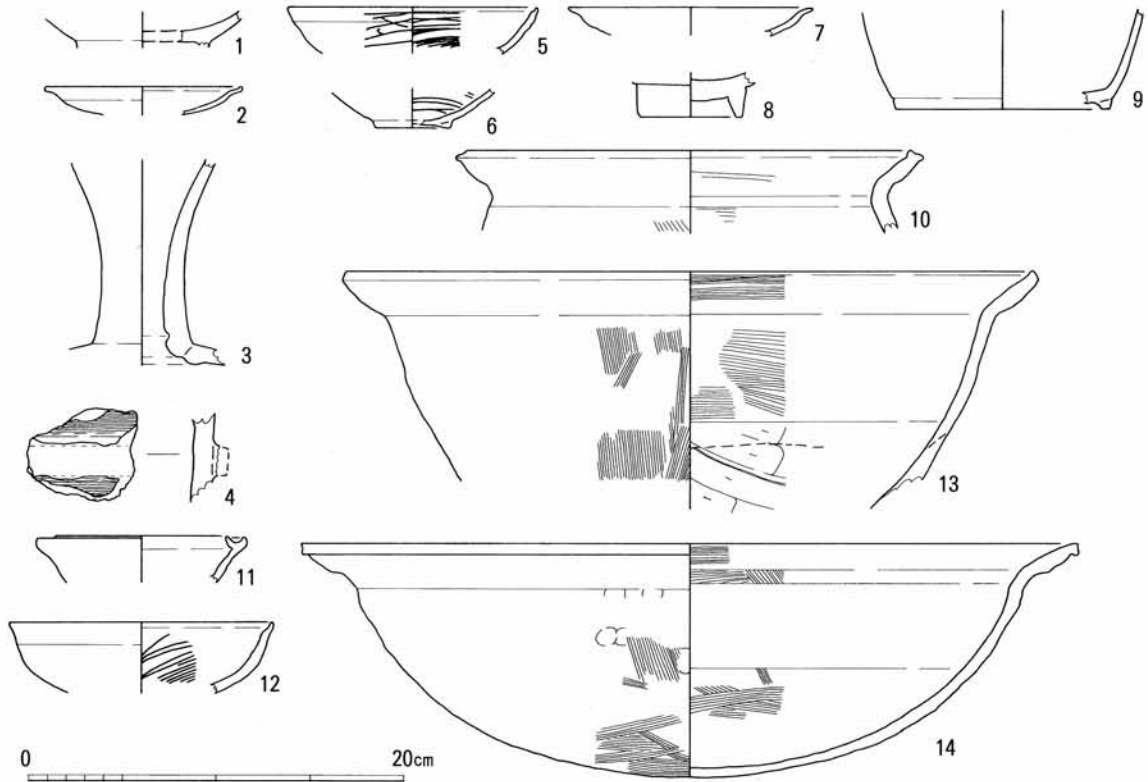
西部（第二京阪道路西北地区）は、人力で調査を行った。期待された西の高所は耕作土以下砂礫層で遺物包含層や安定した面はなかったものの、やや標高の下がる99・101・102・107トレンチからは、中世の遺構面とその下から飛鳥時代の良好な遺物包含層と土坑・溝などの遺構が見つかった。

中央西部である81～92トレンチは東より一段高いが、耕作土以下砂層が広がる地点がほとんどで、第6次調査地に近い85・86トレンチでは中世の遺物包含層と溝が見つかった。

範囲内の調査が一段落した後、時期を平行して行われている第5次調査地で見つかった集落内の大溝の延長部確認のため、A～Jのトレンチを入れた。その結果、A・G・H・Jトレンチで大溝を確認でき、南西から北に膨れて、南東、そして東、と蛇行しつつ流れていくことがわかった。大溝からは飛鳥・奈良時代の土器が見つかった。



Gトレンチ大溝（西壁）



1トレンチ：緑釉陶器（1） 9トレンチ：土師器 皿（2）、須恵器 ツボ（3）、埴輪（4）
 15トレンチ：瓦器碗（5・6）、土師器 皿（7）、土師器 カメ（10） 17トレンチ：白磁碗（8）
 26トレンチ：須恵器 杯（9） 101トレンチ：須恵器 杯身（11）、土師器 杯（12）、土師器 ナベ（13・14）

遺物実測図

4. 遺 物

今回の調査では、コンテナにして3箱分の遺物がみつまっている。時期的には弥生時代から江戸時代のものがみつまっている。遺構がみつかった南と北の調査地周辺の遺物包含層と遺構からで、飛鳥・奈良時代と平安時代から鎌倉時代にかけてのものが中心である。

1は、1トレンチの緑釉陶器の底部である。須恵質で、全面に緑色の釉葉がかかる。

2～4は9トレンチからみつかった。2は口径10.6cmの土師器の皿。3は須恵器ツボの頸部である。4は円筒埴輪でタガの先端を欠く。外面はヨコハケを施し、赤褐色。

5～7・10は15トレンチのものである。5は口径13cmの瓦器碗の口縁部で、内外面に暗紋が施される。6は瓦器碗の底部。7は土師器皿。10は土師器のカメの口縁部である。

8は17トレンチの白磁碗の底部である。削出し高台で、見込に白色の釉がかかる。

9は26トレンチの須恵器の杯Bである。器高は5.2cm以上、口縁端部を欠く。

11～14は101トレンチの土器である。11は須恵器の杯身で、口径9.1cm。12は土師器杯で口径14cm、内側に放射状一段暗紋をもつ。13・14は土師器のナベで土坑からみつかった。13は口径36.6cmで深め、14は口径41cmの半球形である。

5. まとめ

今回の調査は、本市と八幡市とに広がる新田遺跡の南部分の調査であり、京田辺市側では5回目の調査となる。昨年及び今回の調査で、試掘としては新田遺跡の京田辺市側のほぼ全域を調査し終えたことになる。

その内容は前述のとおりであるが、まとめとしてもう一度概観したい。

調査地域内でピット・土坑・溝などの遺構が存在する地区がみつき、南北2か所の地域に遺構が広がることがわかった。

1つは南部の高所で、主に飛鳥時代～平安時代の遺構・遺物がみつき、昨年度の調査や第5次調査でみつけた集落跡が続いていることがわかった。遺物では瓦や製塩土器・緑釉陶器等がみついているほか、円筒埴輪が1片みつかったことが注目される。

第5次調査地は飛鳥・奈良時代の集落で、以降は耕作地となったが、その東側の調査地では、平安時代(10世紀)の遺物が多くみつき、集落が移動あるいは再編成されたことがうかがえる。

もう1つは北側で、みつかった飛鳥時代の遺構・遺物は、地表から約0.8～1mの深さにあった。この地点は第二京阪道路建設にともなう調査で時期不明とされた掘立柱建物跡のすぐ北側であり、みつかったレベルもほぼ同じことから、建物跡は飛鳥時代の可能性もあろう。

第5次調査地の大溝の確認調査を行い、西から東に蛇行しつつ流れることがわかった。

大溝は、奈良時代の集落のなかを流れる水路のようで、調査地内では西から南東に通っていた。その消息を確認するため東西にトレンチを入れたところ、直進せず、大きく蛇行していることを確認した。溝底からは奈良時代の土器がみつき、埋土に時期差がないことから、奈良時代につくられ、短期間のうちに一気に埋められている。大溝の目的・性格は不明ながら、存在した期間は、生活用水として使用したと考えることも可能である。

今回の調査でみつかった2地区は、同じ新田遺跡地内であるが、距離もあり1集落としてのつながりは少ないと思われる。将来的には、分けて新しく遺跡名を与える必要も出てくるとと思われる。

《参考文献》

- 奥村清一郎「八幡地区圃場整備事業関係遺跡昭和58年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報(1984)』京都府教育委員会)1984
- 筒井崇史・森正哲次「京都南道路関係遺跡平成4年度発掘調査概報(3)新田遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第56冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)1994
- 「京田辺市新田遺跡第5次」(『京埋セ現地説明会資料 No00-1』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)2000



平成12年3月30日 印刷

平成12年3月31日 発行

新田遺跡第7次発掘調査概報

—大住地区ほ場整備事業地内の調査 その4—

（京田辺市埋蔵文化財調査報告書第31集）

編集・発行 京田辺市教育委員会

〒610-0393 京都府京田辺市田辺80番地

電話 0774-62-9550

印刷 明新印刷株式会社

〒630-8141 奈良市南京終町3丁目464番地

電話 0742-63-0661